

平成14年岐阜県観光レクリエーション動態調査結果概要

平成14年観光客数(推計)	: 43,211千人	(対前年比 1,351千人増、3.2%増)
日帰客数	: 38,481千人	(対前年比 1,262千人増、3.4%増)
宿泊客数	: 4,730千人	(対前年比 89千人増、1.9%増)
平成14年観光消費額(推計)	: 280,697百万円	(対前年比 7,054百万円増、2.6%増)

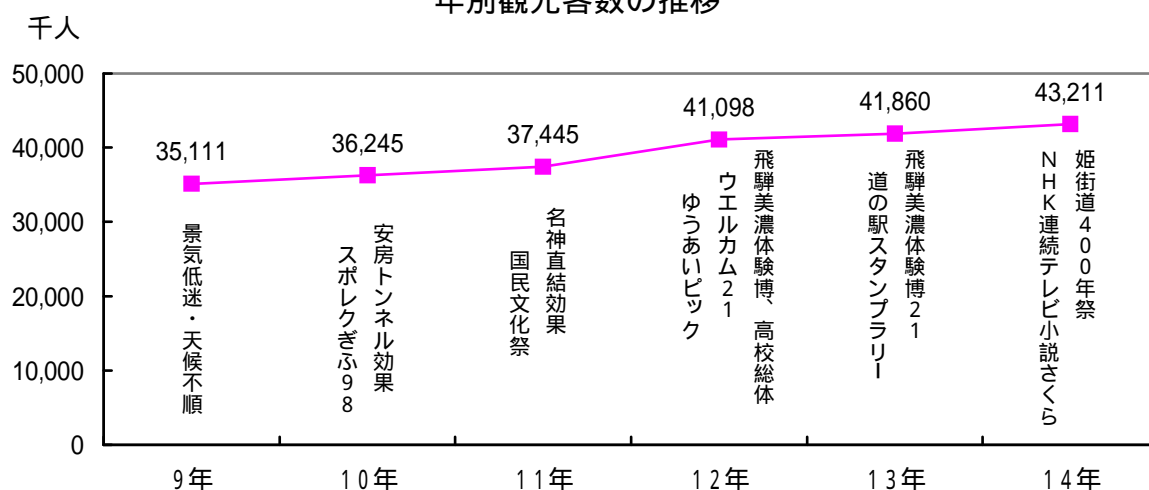
県計

中山道沿線を中心に展開した「姫街道400年祭」、NHK連続テレビ小説「さくら」の効果等により観光客数は増加しており、年々緩やかな伸びを示している。また、宿泊客数については「全国観光統計基準」に基づき調査した平成9年以降初めて増加した。

- ・「姫街道400年祭」効果...年間416件のイベントのうち、本調査の対象となった主なイベント17件を集計すると、延べ1,898千人の人数があった。沿線16市町村では、延べ448千人増(対前年比2.6%増)であり、特に中津川市は昨年より延べ244千人増(対前年比26.8%増)で、県内市町村中第9位の増加率であった。
- ・『NHK連続テレビ小説「さくら」』効果...舞台となった古川町では、昨年に比べ延べ542千人増(対前年比82.1%増)であり、県内市町村中第1位の増加客数であった。

また、平成14年の観光消費額は、岐阜・東濃及び飛騨圏域で観光客が大幅に増加した事により昨年を上回った。さらに、宿泊消費額については、4年ぶりに増加に転じた。

年別観光客数の推移



圏域別

圏域別	観光客数(千人)	対前年比(%)	観光消費額(百万円)	対前年比(%)
岐阜圏域	11,614	+4.1	41,026	0.4
西濃圏域	10,930	+0.1	22,394	1.2
中濃圏域	8,136	2.6	64,526	2.4
東濃圏域	5,880	+16.5	33,518	+14.6
飛騨圏域	6,651	+4.1	119,233	+4.2

<観光客の動向>

- ・岐阜圏域...圏域全体で460千人増加。観光地点別に見ると、集客力で県内第1位の「河川環境楽園」や、「喜多郎コンサート」、「モーティバル2002 世界一くるまの王国フェスタ」等を開催した「姫街道400年祭」イベントでの増加が際立っている。次に観光地分類別に見ると、「自然」「スポーツ・レクリエーション」の増加が顕著である。

- ・西濃圏域...圏域全体ではほぼ横ばい。観光地点別に見ると、「千代保稲荷神社」が際立って増加した（観光客数県内第3位）。また「中山道赤坂宿まつり」等を開催した「姫街道400年祭」イベントでの効果もあった。次に観光地分類別に見ると、「自然」「文化・歴史」が増加した一方で、「スポーツ・レクリエーション」「買い物」が減少した。
- ・中濃圏域...圏域全体で215千人減少。観光地点別に見ると、『日本まん真ん中「子宝の湯」』（増加率県内第2位）による増加はあったが、他地点による減少により、全体としては減少した。次に観光地分類別に見ると、「スポーツ・レクリエーション」「温泉」が増加した一方で、「自然」が減少した。
- ・東濃圏域...圏域全体で834千人増加。観光地点別に見ると、「中山道400年の恋」等を開催した「姫街道400年祭」効果により、「中山道」地点が延べ161千人増（対前年比91.9%増）であった。また、10月にオープンしたセラミックパークMINOでの「国際陶磁器フェスティバル」や、蛭川村の「恵那峡ワンダーランド」がリニューアルオープン（去年は休園中）した事による効果もあった。次に観光地分類別に見ると、特に「文化・歴史」「スポーツ・レクリエーション」が増加した。
- ・飛騨圏域...圏域全体で264千人増加。観光地点別に見ると、「道の駅」で減少があったものの、『NHK連続テレビ小説「さくら」』効果で、特に舞台となった古川町が延べ542千人増（対前年比82.1%増）と大きく増加した。加えて、「全国和牛能力共進会」で延べ298千人、「杜の賑い高山」で延べ約166千人とイベントの効果も大きかった。次に観光地分類別に見ると「文化・歴史」「イベント」が増加し、「買い物」が減少した。

【特記事項】

今回の調査から、昨年まで調査地点に含まれていた岐阜市の「金華山」「梅林公園」が下記の理由により調査地点から省かれている。よって、前述の年別観光客数の推移は、比較のため過去の数値から当該地点を省いた。

- ・「金華山」...「岐阜公園」や「岐阜城」と観光客が重複しやすい。
- ・「梅林公園」...客層を見る限り、年間通した観光地点または交流拠点と捉えるより、3月に行われる「ぎふ梅まつり」といったイベント開催地として捉える方が適切。

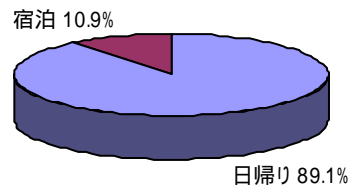
1 観光客数（実人数）

（1）圏域別・四半期別観光客数

平成14年の観光客数は43,211千人（対前年比1,351千人増、3.2%増）

これを日帰り・宿泊別にみると、日帰り客は38,481千人（対前年比1,262千人増、3.4%増）宿泊客は4,730千人（対前年比89千人増、1.9%増）と日帰り客が全体の89.1%を占めている（図1）。また日帰り客は、岐阜・西濃・東濃・飛騨圏域で増加しており、特に東濃圏域での伸びが大きい（対前年比17.3%）。宿泊客は東濃・飛騨圏域で増加した。（表1参照）

図1

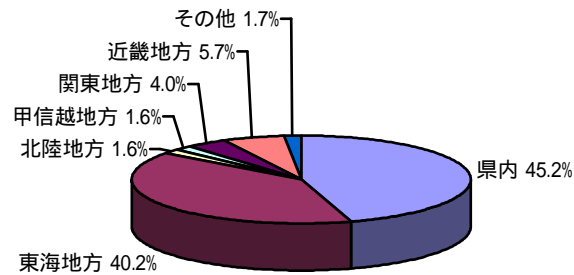


（2）圏域別・居住地別観光客数

居住地別にみると、県内客は19,520千人（対前年比592千人増、3.1%増）県外客は23,691千人（対前年比759千人増、3.3%増）で、県外客のうち7割以上が東海地方となり、ついで近畿地方、関東地方と続いている（図2）。

圏域別にみると、西濃圏域が東海地方から、中濃圏域が近畿地方から、飛騨圏域が関東地方・近畿地方からの観光客数が多いのが特徴的である。（表2参照）

図2

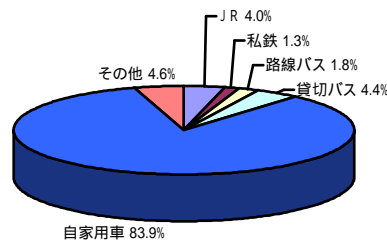


（3）圏域別・利用交通機関別観光客数

利用交通機関別にみると、自家用車の割合が8割以上となっている。（図3）

圏域別にみると、飛騨圏域ではJRや貸切バスの割合が高くなっている。（表-4参照）

図3



(4) 圏域別・同行者別観光客数

同行者人数別に見ると、「2～3人」「4～5人」が全体の約8割を占めており、比較的少人数の観光形態が主流であると言える。(表5参照)

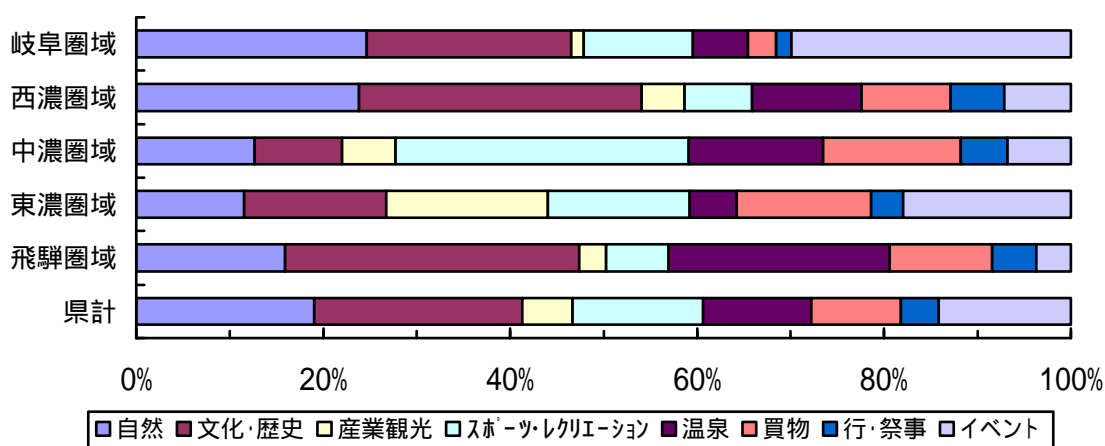
同行者別に見ても、約6割が「家族」で、以下「友人・知人」「自分ひとり」「団体旅行」「家族と友人・知人」と続いている。ただし、飛騨圏域では旅行業者の募集による「団体旅行」の割合が高くなっているのが特徴的である。(表-6参照)

(5) 圏域別・観光地分類別観光客数

観光地分類別にみると、「文化・歴史」と「自然」で全体の4割以上を占め、以下「イベント」「スポーツ・レクリエーション」「温泉」「買物」「産業観光」「行・祭事」と続いている。

圏域別にみると、岐阜圏域では「イベント」や「自然」、西濃圏域では「文化・歴史」や「自然」、中濃圏域では「スポーツ・レクリエーション」、東濃圏域では「イベント」や「産業観光」、飛騨圏域では「文化・歴史」や「温泉」を目的とした観光客が多い。(図4)(表-7参照)

図4



2 観光消費額

平成14年の観光消費額は280,697百万円(対前年比7,054百万円増、2.6%増)で、日帰り客は150,645百万円(対前年比4,202百万円増、2.9%増)、宿泊客は130,052百万円(対前年比2852百万円増、2.2%増)となった。

圏域別にみると、東濃・飛騨圏域で日帰り・宿泊ともに昨年の消費額を上回っており、県総消費額でも飛騨圏域は全体の約4割を占めている。

日帰り・宿泊別にみると西濃圏域では日帰りに消費額が特化しているのに対し、飛騨圏域では宿泊に消費額が特化している。(表-8参照)

3 経済波及効果

平成14年の生産誘発額は397,596百万円(平成13年386,465百万円)で、就業誘発効果は44,112人(平成13年42,918人)となった。

<参考> 各務原市の製造品出荷額等 385,415百万円(H13 県工業統計調査)
瑞浪市の人口 42,453人(H14 岐阜県人口動態統計調査)

4 「道の駅」の観光客数(延べ人数)

平成14年現在、県内「道の駅」は33ヶ所あり、うち本調査の対象となった「道の駅」は28ヶ所である。28ヶ所の道の駅の観光客数は、延べ7,055千人であった。

個別の対前年比較では、28ヶ所中増加14ヶ所、減少12ヶ所、新設2ヶ所であり、26ヶ所合計の対前年比較では、延べ226千人増(3.3%増)であった。

増加の理由としては、各「道の駅」の知名度上昇による客の定着に加え、農産品や特産品即売のPR効果が挙げられる。

【参考】調査の概要

1. 調査期間

平成14年1月1日から平成14年12月31日まで

2. 調査の対象

(1) 観光地点に訪れた観光客

観光地点の定義

・年間観光客が50,000人以上、または季節的観光客が月間5,000人以上

(2) 宿泊施設に宿泊した観光客

宿泊施設の定義

・管理者が明確で常駐しており、毎日の利用者数を確実に把握することができ、宿泊必要なサービスを営利目的で提供する、観光客を宿泊させるための施設

ただし、以下の施設は含まないこととする。

(個人所有の別荘、リゾートマンション、ホームステイ先の個人住居、同伴ホテル・旅館、カプセルホテル)

3. 調査実施機関

県、市町村